

連載エッセイ

essay

第4回

STC に入社して



わだ しんすけ
和田 真典

(一財)
砂防・地すべり技術センター
砂防技術研究所
砂防システム研究室 研究員
(併)企画部 企画情報課 技師

この原稿を執筆している10月現在、緊急事態宣言は明けたものの、いまだ新型コロナウイルス感染症対策の観点から時差出勤やオンライン会議等の対応がとられています。私が砂防・地すべり技術センター（以下、「STC」という。）へ勤務するようになってから現在までの約6か月間、緊急事態宣言が発令されていない期間の方が短かったため、宣言が明けて少し新鮮な気持ちになりました。早く新型コロナウイルス感染症が終息し、普段の生活に戻ることを祈るばかりです。

STCに入社後、この感染症の影響で紆余曲折ありましたが半年が経過しました。この期間、私が感じたことをこのエッセイに記します。

社会人としての勤務と、学生時代のアルバイトを比較すると、責任の重さやマナーの重要性等の違いが挙げられます。その中で私が最も大切だと感じているのは、目的意識をもって仕事に取り組むことです。多くのプロスポーツ選手も目的意識の大切さを説いていますが、彼らほど素晴らしい活躍をしている人が大切にしていることですので、尚更半人前の私は意識しなければならないことだと思います。ただ、入社して間もない頃は、目的も判然としないまま眼前の作業を淡々と行っていました。もちろん、学生時代のアルバイトよりも責任感を持って仕事に取り組まなければならない、ということは肝に銘じていましたが、何を目的としてその作業を行うのか、ということに関して当時を振り返ると、明確に意識することなく過ごしていたように思われます。しかし、周囲の上司や先輩方の仕事に取り組む姿勢を見たり、上司や先輩方から仕事へのアドバイスをいただいた



りするうちに、目的を持つことによって作業のゴールまでの道筋が見え、モチベーションの向上につながると感じました。

半年間、社会人として仕事をしてきましたが、未だに難しく感じていることがあります。それはコミュニケーションです。コミュニケーションといっても様々なものがありますが、例えば失礼の無いように、上司や先輩方と丁寧な言葉遣いで話すことやメールで端的に内容を説明すること、相手に分かりやすいように資料を作成すること等があります。そして、今挙げた3つは特に自分の苦手なことです。しかし、コミュニケーションは仕事の基礎であり、基礎がしっかりすることで仕事が円滑に進むことを、この半年間、上司や先輩方を見て感じました。そのため苦手なこととしっかり向き合いながら、どのようにすれば上手くコミュニケーションがとれるのか、物事を分かりやすく伝えられるのかを念頭に置いて、日々の時間を過ごす必要があると考えています。

最後に私の座右の銘を紹介します。私の座右の銘は「一歩前進」です。これは私が中学生の時から

意識し始めた言葉です。学生時代には、部活やテストで、自分が納得のいかない成績を残した時はもちろん、納得できる成績だった時もきちんと反省、そして前進し、次の練習や勉強に臨むよう心掛けました。事実、自分が少々投げやりになっている時期は、自分自身を客観視することはできませんでしたが、「一歩前進」を意識できている時は、次に何をすべきか客観的に判断することができ、成績向上につながったと感じています。社会人になりましたが、この座右の銘を常に忘れず心に留めておき、自分の成長につなげていきたいと考えています。

入社して半年が経過しましたが、技術も知識もまだ半人前です。そのため、日々の仕事に取り組み、反省するのも手探り状態なことがほとんどです。早く一人前になれるよう、周囲の上司や先輩方のお力をお借りしながら、精進してまいります。そして数年後、数十年後の自分がこのエッセイを読み返した時に、目的意識やコミュニケーション等、どのくらい成長したのか振り返るのが楽しみです。